

令和7年度第2回 教育委員会会議 会議録

- 1 日 時 令和7年5月8日（木）13：30～13：49
- 2 場 所 教育委員会会議室 ハーバーセンター4階
- 3 出席者 <教育委員会>
福本教育長
正司委員 今井委員 山下委員 本田委員（WEB） 吉井委員
- 4 欠席者 なし
- 5 傍聴者 1名（一般1名・報道0名／報道0社）
- 6 会議内容

（福本教育長）

それでは、教育委員会会議を始めます。

本日は、本田委員がリモートでの参加となります。

それでは、議題に入ります。本日は、議案2件、協議事項1件、報告事項1件です。まず、非公開事項についてお諮りいたします。議題のうち、教第4号議案については、教育委員会会議規則第10条第1項第2号により、職員の人事に関する事。報告事項1については、同項第6号により、会議を公開することにより、教育行政の公正かつ適正な運営に著しい支障が生じるおそれのある事項であって、非公開とすることが適当であると認められるものとして非公開としたいと思いますが、御賛同いただけますでしょうか。

（賛同）

（福本教育長）

ありがとうございます。

それでは、議事に入ります。

教第3号議案 神戸市立幼稚園園則の一部を改正する規則に関する意見公募手続きの実施について

（福本教育長）

教第3号議案、神戸市立幼稚園園則の一部を改正する規則に関する意見公募手続きの実施について、事務局より説明をお願いします。

（都築学びの推進課長）

意見募集の期間としましては、令和7年5月12日から6月10日の30日間でございます。

改正内容を2ページ目以降に記しております。1. 改正の趣旨ですが、幼児教育については、公・私立の教育・保育施設一体で推進するとしており、その方針を「今後の幼児教育・保育における市立幼稚園について（方針）」に定めております。その方針に則りまして、就園可能な園区を、原則その園が立地する教育・保育提供区域、これは行政区と北神区役所、北須磨支所の11区域でございますが、こちらの単位に改めるものでございます。

改正の内容といたしましては、令和7年10月の園児募集より、原則として神戸市内全域において、園区を教育・保育提供区域に改めるものになります。ただし、市立幼稚園がない長田区、須磨区（本区）や、従来から区域外の一部を園区として設定していた場合は、別紙のとおり園区を設定します。

施行予定日は、公布の日から施行ということで考えております。

なお、別紙の一番下に書いておりますが、灘区、北区（本区）、垂水区については、令和7年度から3年保育を開始しており、通園事情が変化したことから、園区を教育・保育提供区域に改めるものでございます。

（福本教育長）

本件について御質問ございますか。

（正司委員）

我々は説明を聞いているので内容が分かりますが、例えば「園区」や「教育・保育提供区域」という言葉は、パブコメを行うときには注釈が入るのでしょうか。

（都築学びの推進課長）

教育・保育提供区域については、米印で注釈を記載しておりますが、園区という言葉自体は、幼稚園に通っている方からすれば一般的なものかと思しますので、特に注釈等を入れることは考えておりません。

（福本教育長）

教育・保育提供区域という言葉は、なかなか分かりにくいのではないかとのことですね。

（正司委員）

少し分かりにくいのではないかと感じるのですが。

（福本教育長）

そこは工夫をしても良いかもしれないですね。説明は書いてありますが、もう少し分かりやすい言葉に。

(都築学びの推進課長)

はい。考えてみます。

(今井委員)

この改正により、多くの園では通園区域が広がるということですか。

(都築学びの推進課長)

例えば垂水区の場合、ある幼稚園には一部の地域の方しか通えていませんでしたが、このたびの改正により、垂水区在住の方であれば今ある垂水区の三つの幼稚園全てに通えることとなります。保護者からすると、通える範囲が広がるという理解で良いかと思えます。

(今井委員)

その場合、通園に時間を要する御家庭が大分増えることを想定されていますか。もしくは、実態としてはあまりいないと見込んでいらっしゃるのか、見込みや課題等がありましたら教えていただければと思います。

(都築学びの推進課長)

元々公立幼稚園は保護者が一緒に来ていただくということになっております。今回、園区を広げることによって、保護者や幼児からすると通学区域が広がりますので、その分距離はかかると思っております。ただ、園区を広げることによって、こちらから何らかの支援を行うことは現在考えておりません。

(福本教育長)

ほかに、この件で御質問等ございませんでしょうか。

よろしいでしょうか。

では、意見がないようでしたら採決を行います。教第3号議案を承認とさせていただきます。よろしいでしょうか。

(賛同)

(福本教育長)

ありがとうございました。

それでは、次の案件に参ります。

協議事項 4 全国学力・学習状況調査及び神戸市学力・学習状況調査の C B

T化について

(福本教育長)

協議事項4、全国学力・学習状況調査及び神戸市学力・学習状況調査のCBT化について、事務局より説明をお願いします。

(藤井政策担当課長)

1. 全国学力・学習状況調査について、小学校6年生、中学校3年生を対象に、4月17日に実施しております。報道もされていましたが、理科及び質問紙調査において、CBTを使っております。

2. (1) 今回の理科のCBT調査の特徴ですけれども、デジタルを使うということですので、回答の集計が簡易になるということがあります。くわえて、動画等を用いた問を設けることができるといったところが特徴になっておりまして、後ほど少しデモのような形で御覧いただきたいと思っています。このほか、生徒ごとに異なる問題を設定するという形を導入しております。

このCBT調査について、本市ではどういった実施状況であったかというところですが、事前テストのようなことも実施しており、運用面では概ね混乱なく、円滑に調査が実施できたところでございます。一部、表示がされなかった、OSのアップデートが始まったなどございましたが、その児童生徒に対しては別途調査を行うということで対応してございます。

続いて、3. 令和7年度に新たな形で実施しようとしている市の学力・学習状況調査ですけれども、CBT化した上で、記載している科目で9月に実施予定でございます。

(2) 全国調査を踏まえた市調査の方向性・対応です。CBTの特徴を生かした問題を作成したいと思っております。動画の問題や図をドラッグしながら考える問題、また、記述問題の無回答率が少し高いという部分もございますので、自分の考えを説明する問題や論理的に根拠を明確にして記述する問題を考えてございます。自動採点技術も導入します。個々の児童生徒の課題や習熟状況をもとに、学習の改善に繋げていきたいと考えてございます。

それでは、全国学力・学習状況調査の問題のデモをご覧いただきたいと思っております。

(篠原中等教育担当課長)

今年度の理科の問題です。実験の動画を見て答えるような問題になっております。ドライアイスの中に燃焼したマグネシウムを入れると、そのマグネシウムがどうなるかということを見ます。今、動画が流れておりますが、蓋をして燃焼させます。蓋をすると、酸素がなくなると考え、火が消えるのではないかと考えますが、実際は動画のように燃焼し続けています。この動画を見た後に、設問に答えていくという形になります。

設問は、今の動画にあった化学反応を化学式で表します。化学式も実際に画像を動かしながら考えていきます。マグネシウムと二酸化炭素が化学反応し、酸化マグネシウムと炭素になるという回答が正解です。モデルを動かして考え、動画を見て考えるのがこの問題の特徴になっております。

(福本教育長)

本件について御質問等ございますか。

(今井委員)

実際に問題を見た子供たちの反応や、子供たちが解いている様子を見た先生方の反応等、お耳に入っていることがあれば教えていただきたいです。

(篠原中等教育担当課長)

特に大きな問題や課題があったということは聞いていません。動画を使用し、図等を動かすことについては、デジタルドリルや普段の授業の中でも取り組んでいますので、スムーズに行えたと聞いております。

(今井委員)

このCBTという言葉が一般にはなじみにくく、まだ十分浸透していない言葉ではないかと思えます。今後おそらく、今回の調査結果を保護者の方に向けて御説明する機会もあると思えますが、CBTという言葉だけだと分かりにくいと思えますので、御配慮いただければと思えます。

(藤井政策担当課長)

分かりやすく丁寧に説明したいと思います。

(吉井委員)

CBTは具体的には何という英語の略語ですか。

(藤井政策担当課長)

コンピュータ ベースド テスティングです。

(山下委員)

デモを見せていただいたので雰囲気は分かりましたが、可能であれば自分達も解いてみたいと思いました。

2 (2) のところで、事前検証の実施等準備を行い、不具合が6校で15人ということで、

比較的少なかったのではないかと思います。それでも少し不具合があったということで、OSのアップデートは本当に気の毒だったと思いますが、問題が表示されなかった、表示に時間を要したことの原因や今後の対策について教えていただきたいということが1点です。

また、CBTで少し気になったのが、児童生徒の日本語入力のスPEEDについてです。手書きよりも良い面もあるとは思いますが、入力の慣れ不慣れについて教えていただければと思います。

(藤井政策担当課長)

「調査問題が表示されなかった、又は表示に時間を要した」というのは10人ほどだったと思いますが、これについては学校の通信容量の問題もあると思います。対策もしていましたが、それでも起こってしまいましたので、事業者にも話をし確認しています。学校の状況もありますが、学校の周辺地域の通信状況も影響があった可能性があると考えております。特に、一斉に実施するところといったトラブルが想定されるような大規模校については、時間を分けて実施した学校もございまして、そういったところではトラブルはありませんでした。環境面と運用面を合わせて考え、こういったことがないように実施していきたいと考えています。

2点目の入力の問題についてです。今回、小学6年生・中学3年生で実施しましたが、本市独自で実施する学力・学習状況調査については小学4年生・5年生、中学1年生・2年生を対象に実施するということもあり、慣れていってほしいと思っています。令和9年度には全国学力・学習状況調査の全ての教科がCBTに移行しますので、できるだけ慣れて、円滑に実施する必要があると思っています。また、学力・学習状況調査のためだけではなく、情報活用能力を育成するという本質的な部分でも、児童生徒が端末をしっかりと使えるようにしていくことは必要なことだと思っていますので、しっかり準備したいと思っています。

(山下委員)

おそらく選択式の問題ですと、比較的トラブルが少ないのではないかと思います。考える力を説明するということになるのでどうしても言葉で記していくことになるので、結構な長さを入力することになると思います。早く慣れていただけるとありがたいと思います。ただ、そのために別途指導の時間を確保するというのも難しいのではないかと考えています。今後の課題になるようなところが判明したら、また教えていただければと思います。

(福本教育長)

令和9年度からの全国学力・学習状況調査に向けた練習とはいえ、特に4年生は今回初めてですので、どの学校も一定の水準の練習をしているかどうかは確認した方が良いでしょう。きちんと実施できるように。

ほかに御質問等ございませんか。

よろしいでしょうか。

ありがとうございました。

公開案件は以上となりますが、教育委員の皆様から、ほかに取り上げるべき事項について、御意見ございませんでしょうか。

それでは、本日の公開案件を終了いたします。

閉会13時49分